

道伝えの日 芭蕉忌句会 入賞句

○兼題句 「芭蕉忌」

・小鳥幸男選

〔特選〕

五、筆失せし矢立の窪み翁の忌

野口 恒子

三一、遠山に鉄塔光る翁の忌

紺谷 健次郎

三八、芭蕉忌の句帳に騒ぐ影を閉づ

山本 史子

四一、おもしろう風吹く枯野芭蕉の忌

中嶋 源兆

・互選

〔一席〕

五二、芭蕉忌や一字に迷ふ秋の夜

吉田 紀美子

〔二席〕

一、時雨忌や水の都に渡し舟

北川 登志子

五、筆失せし矢立の窪み翁の忌

野口 恒子

四一、おもしろう風吹く枯野芭蕉の忌

中嶋 源兆

〔三席〕

二八、芭蕉忌や縫い目を直す頭陀袋

中家 富枝

三四、わが杖も使ひ納めや翁の忌

小林 高子

五八、錆色の野は黄昏れて翁の忌

山下 しき



○当季雑詠句

・小鳥幸男選

〔特選〕

三、村出づる子も笛方に秋まつり

伊藤 浩子

五二、彩をみな使ひ果たして枯木立

吉田 紀美子

五六、賢治忌の標本箱に孔雀石

澤木 正子

六〇、磨ぎ汁を残れる菊に母の忌来

垣内 静子

・互選

〔一席〕

五二、彩をみな使ひ果たして枯木立

吉田 紀美子

〔二席〕

三、村出づる子も笛方に秋まつり

伊藤 浩子

一九、野の風のままに活けたる薄かな

田村 喜栄

〔三席〕

六、耳打ちのくすぐり残し赤とんぼ

谷口 ふさ子

二九、母となるうなじの黒子白芙蓉

溝端 文子

五〇、少し嘘つきて夜長を頼杖す

数崎 清子

五五、秋すだれ床屋の椅子にふと寝入る

野村 勝巳



道伝えの日 芭蕉忌句会 高校生の部 入賞句

・小鳥幸男選

〔飛騨神岡高等学校〕

入賞	秋風にとりのこされた十六歳	一年	波岡 梨乃
〃	干柿のごとき祖母の手つなぎけり	一年	稲木 真優
〃	名月や五段活用復唱す	二年	川上 このか

〔高山西高等学校〕

入賞	むせかえる昼の稲穂の中を行く	二年	金子 実礼
〃	ヒガンバナ生と死むすぶみちしるべ	二年	森本 和志
〃	照れ笑い撫子咲いた君の頬	二年	小池 志歩

